

## 4. 評価指標

指標名	現状	目標	指標の説明・目標設定の考え方
① 被災した状況を想定した、県保健医療調整部門と関係機関等との実動訓練の実施回数	0回 (令和3年)	毎年1回 (令和11年)	関係者間で顔の見える関係を構築し、災害時にも迅速に対応できるよう、連携訓練を毎年1回は実施する。
② DMATのチーム数	35チーム (令和4年)	45チーム (令和11年)	国主催のDMAT養成研修の受講枠を最大限に確保し、チーム数を毎年2チーム程度増加させる。
③ 被災した状況を想定した災害実動訓練を実施した災害拠点病院の割合	86.7% (令和5年)	100% (令和11年)	平時からの災害に備えるために、毎年全ての災害拠点病院の実施を目指す。
④ 病院における業務継続計画の策定率	53.8% (令和3年)	100% (令和11年)	災害発生時の早期の診療回復のために全ての病院が策定済みであることを目指す。
⑤ EMISの操作を含む研修・訓練に参加している病院の割合	93.3% (令和4年)	100% (令和11年)	保健所等が実施するEMISの操作研修・訓練に毎年県内全ての病院が参加することにより、EMISの習熟度を高める。
⑥ DPATのチーム数	22チーム (令和5年)	28チーム (令和11年)	単一病院で構成されているDPATチーム数を毎年1チーム程度増加させる。

第8次熊本県保健医療計画 現状把握のための指標一覧  
(災害医療)

病期・医療機能	SPO	重点●	指標名	調査の詳細		データ												単位	評価指標として使用			
				調査名	調査年(調査周期)	全国	熊本県		二次保健医療圏ごと													
							数値	全国順位	熊本・上益城	宇城	有明	鹿本	菊池	阿蘇	八代	芦北	球磨			天草		
災害時に拠点となる病院 災害時に拠点となる病院以外の病院	S		病院の耐震化率 (災害時に拠点となる病院)	病院の耐震改修状況調査(国調査)	R4.9.1 (毎年)	94.6	93.3	-	100	100	50	100	100	100	100	100	100	100	100	%		
災害時に拠点となる病院 災害時に拠点となる病院以外の病院	S		病院の耐震化率 (すべての病院)	病院の耐震改修状況調査(国調査)	R4.9.1 (毎年)	78.7	74.8	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	%	
災害時に拠点となる病院	S		複数の災害時の通信手段の確保率	災害拠点病院現況調査(国調査)	R4.4.1 (毎年)	94.4	73.3	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	%	
災害時に拠点となる病院	S		多数傷病者に対応可能なスペースを有する災害拠点病院の割合	災害拠点病院現況調査(国調査)	R4.4.1 (毎年)	75.5	80	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	%	

病期・医療機能	SPO	重点●	指標名	調査の詳細		データ													単位	評価指標として使用	
				調査名	調査年(調査周期)	全国	熊本県		二次保健医療圏ごと												
							数値	全国順位	熊本・上益城	宇城	有明	鹿本	菊池	阿蘇	八代	芦北	球磨	天草			
災害時に拠点となる病院以外の病院	S	●	広域災害・救急医療情報システム(EMIS)への登録率	都道府県調査	R3.4.1(毎年)	-	100	-	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	%	
療養支援	S		DMATのチーム数	DMAT指定医療機関調査(国調査)	R5.4.1(毎年)	1754(総数)	35	-	17	1	4	1	3	1	2	2	2	2	2	チーム	○
療養支援	S		DMATのチームを構成する医療従事者数	DMAT指定医療機関調査(国調査)	R5.4.1(毎年)	15,817(総数)	181	-	83	8	21	7	14	7	13	8	8	12	人		
療養支援	S		DPATのチーム数	都道府県調査	R5.3.31(毎年)	-	23	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	チーム	○
療養支援	S		DPATのチームを構成する医療従事者数	都道府県調査	R4.4.1(毎年)	-	129	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	人	
都道府県	S		DMAT感染症研修を受講したDMAT隊員の隊員数・割合	都道府県調査	R4(毎年)	25.6	31.9	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	%	
都道府県	S		都道府県災害医療コーディネーター任命者数及び地域医療コーディネーターの任命者数	都道府県調査	R5.4.1(毎年)	2,007(総数)	42	-	18	3	4	3	2	2	3	2	3	2	人		
災害時に拠点となる病院 災害時に拠点となる病院以外の病院	P	●	EMISの操作を含む研修・訓練を実施している病院の割合	都道府県調査	R4.4.1(毎年)	92	93.3	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	%	○

病期・医療機能	SPO	重点●	指標名	調査の詳細		データ											単位	評価指標として使用		
				調査名	調査年(調査周期)	全国	熊本県		二次保健医療圏ごと											
							数値	全国順位	熊本・上益城	宇城	有明	鹿本	菊池	阿蘇	八代	芦北			球磨	天草
災害時に拠点となる病院 災害時に拠点となる病院以外の病院	P	●	EMISの操作を含む研修・訓練を実施している病院の割合	都道府県調査	R4(毎年)	97.6	100	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	%	
災害時に拠点となる病院 災害時に拠点となる病院以外の病院療養支援	P	●	災害時の医療チーム等の受入を想定し、都道府県災害対策本部、都道府県医療本部で関係機関(消防、警察、保健所、市町村等)、公共輸送機関等との連携の確認を行う災害訓練の実施回数	都道府県調査	R5.3.31(毎年)	27 総数	1	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	回	○
災害時に拠点となる病院 災害時に拠点となる病院以外の病院療養支援	P	●	災害時の医療チーム等の受入を想定し、関係機関・団体と連携の上、保健所管轄区域や市町村単位等で地域災害医療対策会議のコーディネート機能の確認を行う災害訓練の実施回数	県独自調査(HC取組実績)	R5.3.31(毎年)	55 (総数)	17	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	回	

病期・医療機能	SPO	重点●	指標名	調査の詳細		データ											単位	評価指標として使用		
				調査名	調査年(調査周期)	全国	熊本県		二次保健医療圏ごと											
							数値	全国順位	熊本・上益城	宇城	有明	鹿本	菊池	阿蘇	八代	芦北			球磨	天草
災害時に拠点となる病院 災害時に拠点となる病院以外の病院療養支援	P	●	広域医療搬送を想定し、都道府県災害対策本部、都道府県医療本部で関係機関（消防、警察等）、公共輸送機関等との連携の確認を行う災害訓練の実施箇所数及び回数	都道府県調査	R3 (毎年)	17 (総数)	0	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	回	
災害時に拠点となる病院	P	●	被災した状況を想定した災害実働訓練を実施した病院の割合	災害拠点病院現況調査(国調査)	R5.4.1 (毎年)	85.6	86.7	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	%	○